

かがやく女性

題字
福井県知事 西川一誠
第28号

発行者
(財)ふくい女性財団

ふくい女性財団の研修事業の大きな柱である「地域ネットワークリーダー研修会」。今年は、4会場で地域色豊かな自主企画で研修し、3会場では地域防災についてKJ法によるワークショップを開催（7会場で約270人参加）。ここでは、鯖江・越前町会場の様子を報告します。

女性の力、歴史の中から探る

堀 大介氏（越前町教育委員会学芸委員）

企画のきっかけは、「女性蔑視はアダムとイブが始まり」という興味深い堀氏の話を聞いた事。堀氏は北陸を舞台とした弥生時代の国家形成史を研究し、従来の年代論を大きく変える斬新な説を発表しており、参加者は新説を期待して受講した。

「神はアダムのあばら骨をとってイブを作った」という男性の一部が女性という神話に対し、「日本最初の男女、イザナギとイザナミは同格」であり、世界に例がない。縄文時代の土偶、邪馬台国の卑弥呼、推古天皇、持統天皇、北条政子…歴史的に日本は女性の力が強かった。

地域ネットワークリーダー研修会

「女性の政治的リーダーを選出する文化的素地があったのだから、これからも然り。21世紀は女性の力が是非とも必要」と、力強いエールを送っていた。



◀あわら会場：講演
「自己と他己～しあわせを分け合う～」



大野会場：講演▶
「ニュースのネタはごろごろ」



◀福井会場：パネルディスカッション「男女共同参画推進～地域と職場からの発言～」

“向こう三軒両隣”の地域の結びつきが、防災にも大切です！



▲美浜町・越前市・高浜町の3会場：ワークショップ「防災のまちづくり、人づくり」

人は財産！ (人材育成事業)

知識の習得や様々な気づきで、活動を活性化！

男女共同参画セミナー

『民主党政権で地域はどう変わる』

講師 北島三男氏（福井新聞社論説委員長）

劇的な政権交代で、期待と不安が交錯する中で、国と地方の関係がこれからどうなるのか、国依存体質から地方の自立へ、「ローカルガバナンス」「市民協働」をどう実現していくか、報道から見てくる日本、福井のゆくえについて学びました。（平成21年10月24日開催）

◆政権交代、期待と不安の中で
日本のマスコミはすぐ劇場化したがるが、支持率だけで民意は量れない。政治がオープンになってきた。しばらくは見ていく必要がある。

◆これまでの政治はどうだったか
官僚内閣制、族議員政治依存体質で、政権交代のない硬直化政治だった。小泉型政治による「自民破壊」で、自民政権を保ってきた構造も破壊された。

◆民主党政権への期待と懸念
寄せあつめ政党ながら6回の国政選挙を経て、目的意識を持った結束力ある集団となつていく。国民目線による政策本位型政治（マニフェスト政治）で、わかりやすい政治実現を打ち出している。

一方、予算知識の少なさなどから大幅な政策転換実現性への懸念がある。マニフェストを變更したり先延ばしするのなら、国民への丁寧な説明が必要だ。国

民に情報開示しながら、政治に参加してもらうことが大切である。

◆どうなる、国と地方の関係
①地域のことは地域が決める。権限と財源移譲。

②前政権が決めた概算要求基準撤廃。国民から遠い予算から切っていく、改めて政策設計する。

③陳情型政治からの転換。「地方版国家戦略局（福井地域戦略局）」を設置。

しかし、国と地方の「協治システム」の姿がまだ見えない。福井県民がどれだけがんばるか（福井県選出の議員を動かせられるか）、市民目線で政治にどれだけ参画するかが重要である。



ふくい

女性塾

テーマは「科学技術」
知る、触れる 科学のあれこれと福井の技

(平成21年9月26日・11月28日)

○なぜ科学技術？

科学技術分野の女性の活躍促進は、国の第2次男女共同参画基本計画（平成17年12月）、女性の参画加速プログラム（平成20年4月）に盛り込まれました。以来、行政や各機関の取り組みが活発になっている分野です。

○講座内容

科学技術振興への女性の参画の必要性を皮切りに、男女を問わず子どもの興味を引き出すための教育現場での取り組みや、福井が世界に誇る最先端技術、身近な科学として「食」を取り上げ、講義や実験、視察などを実施しました。

講師のひとりとして、育児休業中の女性医師が登場。女性医師が直面する問題点などから、出産・子育て等との両立が困難とされる理由やその改善策を考える視点を学びました。

参加者は、「科学技術は生活に深く関係し、女性の活躍がもつと必要」と、重要な分野であることを確認しました。



2児の子育てに奮闘しながら、医師としての今後を語る里見ドクターには、参加者から大声援！

トピック

参加者の要望を取り入れ、「番外編 福井県工業技術センター視察」を実施しました。積極的なご意見により、さらに充実した講座となりました。

○参加者の声

全日程に参加して

あわら市 川崎邦子さん

科学はほど遠い存在であった私ですが、福井県の先端技術がリユージュ競技日本代表の最新型そりに活用されたなど多くを知り、感銘を受けました。

講座中で紹介された楽しい実験を孫が大喜びする姿を見、幼少のころから科学に親しみを与える事の大切さも実感しました。



身近な「食」の科学についての講義は、興味津々。



(写真後方) 小型ロボット「アイボ君」操作体験の補助に来てくれたのは、福井高専電子情報工学科5年の女子学生さん

いきいきウーマン

女性の活躍が大いに期待される「研究部門」で働き始めて9年目の神田美奈子さん。地元の自然や人への温かな眼差しが、地道な研究活動に反映されていると感じるインタビューでした。

Q 研究員としてのお仕事は？

幼少のころから目にしてきた「きれいな田んぼの風景」と、母親の「食べる事は無くならない」との言葉に影響を受け、大学は農学部を選択。現在は、「梅の土壌と肥料」について研究しています。三方五湖周辺に梅が多く植えられており、特産の梅の収穫量を維持しつつ、周囲の環境に悪影響を与えないということがテーマになっています。

研究は複数年のスパンで行いますが、短期間で得られた結果などを随時発表しています。

Q やりがいや苦労は？

こういう土の処理をすると良いだろうと仮説を立てた事を、データで実証できた時は「やった！」と思いますね。さらに、そのデータを農家さんたちに提示できるときが嬉しい。逆に、説得力のあるデータを示せなかった時はガッカリします。

仕事上で男女の差は感じません。むしろ、正確さが要求される作業などを伴う「分析」は、女性の方が得意だと感じる事があります。しかし、あくまで性差というより個人の問題ですね。

Q 研究職として重要視するのは？

他の人の意見を聞くことと、情報収集が一番です。加えて、データをどれだけ客観的にみる事が出来るかが大切だと思っています。可能な限り国内外の文献に目を通すようにしています。そして、すぐに結果が出る仕事ではないので、モチベーション、好奇心、やる気の持続が重要です。

Q 女性たちへのメッセージは？

女性が理系に弱いとは思いません。例えば、生物（食）や植物（花木）などに関して、生活の中で女性の関わりは大きい。女性の視点が入ると、もっと活性化する事でしょう。

研究は本当に楽しい！老若男女のいろいろな視点が入ると研究にも膨らみが出ます。どんどん女性も入ってきてください。



福井県園芸試験場
ウメ研究グループ研究員
神田 美奈子 さん

三方五湖の環境に取り組む市民活動に参加するなか「子どもの行動力に感動！」した様子を話してくれた神田さん。休日には、庭に植えたレモンの木の世話と、愛犬テオと過ごす時間が楽しいそう。

父親も子育てができる働き方を目指して パパ・ママ育休プラスが導入！

（改正育児・介護休業法 平成21年7月公布。
一部の規程を除き、施行は平成22年6月30日。）

① 父母がともに育児休業を取得する場合には、育児休業をとれる期間を通常の「子が1歳まで」から「1歳2カ月まで」に延長するという法改正の愛称です。
（父母一人ずつが取得できる休業期間の上限は、現行通り1年が原則）

② 父親が産後8週間以内に育休を取得した場合は、再度育休を取得OK！

③ すべての父親が必要に応じて取得可能に！労使協定により専業主婦（夫）の夫（妻）を対象外とする制度の廃止。

「ワーク・ライフ・バランス」は、近年の男女共同参画のキーワードのひとつです。仕事と生活の調和が実現した社会とは、「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」と、憲章（*）にあります。

子育てに関わる事ができる期間は、人生の中で限られています。母親の働き方はもちろん、父親も子育てができる働き方を考えてみませんか。

*平成19年12月「官民トップ会議」にて決定された仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章

ふくい女性財団の子育て支援事業

● ユー・アイふくいのチャイルドルームの運営（県から受託）

0歳から就学前のお子さんをお預かりしています。ママたちは学習やリフレッシュ、お子さんたちも楽しい時間を過ごします。

● 病児・緊急預かり対応基盤整備事業（厚生労働省から受託）

お子さんの一時預かりなど実際の支援は、県内4ファミリーサービスクラブが窓口となつて、多くのママ・パパを支えています！ふくい女性財団では、スタッフ養成の研修会を企画・運営。

保育、病気やけが、栄養など研修内容は多岐にわたります。



● ふくい仕事と子育て応援ネットワーク事業（独）福祉医療機構から受託
新たな支援グループの立ち上げを目指して研修会を開催しました。



法や制度の充実

はもちろんですが、子育てにはこ

のような「地域の関わり」が欠かせません。子育て支援団体や関連機関、地域の大人が連携して、子育て世代を応援していきます。

あなたも応援の輪に入りませんか？

ネットワークから

「かつやま のぞみフェスタ」を開催

勝山市男女共同ネットワーク 会長 多田千代美

11月28日、勝山市福祉健康センター「すこやか」において、「自分らしく キラリと光ろう 男と女」をテーマに、約250人の参加のもと「かつやま のぞみフェスタ」を開催しました。

今年は、主夫でエッセイストの高田浩史氏による「主夫実践 自分らしい生き方」と題した講演会や、「リフォーム ファッションショー」を行いました。リフォームファッションショーでは、会員が着なくなった着物を洋服や小物にリフォームし、自らモデルとなって披露しました。会場は大いに盛り上がり、今回のテーマである、自分らしくキラリと光ることができたつどいとなりました。



嬉し恥ずかし、モデル体験！

全国会議 参加報告

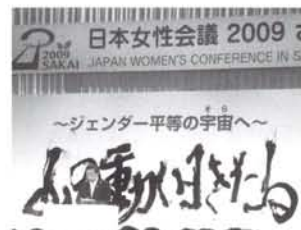
「日本女性会議 2009 さかい」体験記

みらい子育てネット福井県地域活動連絡協議会 会長 細川 豊子

昭和60年の国連婦人の10年、男女雇用機会均等法の成立以来、男女共同の意識の高揚と、男女の対等な立場での社会参画が私たちの脳裏をかすめています。

大会1日目は内閣府岡島敦子氏の基調報告と、赤松良子氏・樋口恵子氏による対談。実生活での男女の社会進出状況と役職登用の難しさについて語られた対談は、心打つものでした。女性の役職登用30%の実現を望みます。

2日目は、分科会「男性も育児・家事を楽しもう」に参加し、男性の育休取得時の職場での風当たり等を愉快に拝聴。ワーク・ライフ・バランス推進に対する男性としての心境の変化や、社会参画に対する見方、自身の成長の喜びを社会に貢献していきたい等、「男性も変わらなくては」と感じられた体験談に、拍手を送りたいと思いました。



★日本女性会議2010は、10月1日（金）～3日（日）に京都市にて開催予定です。今年はぜひあなたがお参加を！

福井県国際交流女性の会

会長 花谷美智子

本会は、県の海外派遣研修事業「訪ソ・国際婦人の船」「ふくい女性の翼」「国際女性の翼」の参加者で構成しており、平成7年2月25日に設立。会員数は555名。

会員相互の連携と親睦を図るとともに、海外研修で得た体験を生かして、地域社会の発展や諸外国との相互理解向上に寄与し、さらには女性の地位向上ならびに男女共同参画社会形成の推進を図ることを目的として活動しています。

毎年、秋に企画事業を行っているほか、総会時に講演会等を行っています。近年の企画事業としては、福井国際フェスティバルにおける日本文化の紹介、研修事業30年を振り返ったメモリアル企画展等があります。21年度は宿泊研修会を開催し、講演会やグループセッションを行いました。

今後とも、会員が地域社会において貢献できるように、当会の目的に沿った事業を企画していきたいと考えております。



いま輝いています (加盟団体活動紹介)

福井ファミリースービスクラブ

会長 政野 澄子



女性の社会参加、地域活動への参画などが盛んになる中、家事負担を軽減し能力活用を促進するために、会員同士で家事や育児を助けあうという目的のもと、福井ファミリースービスクラブは、昭和61年に誕生しました。急な残業時の託児、病院の付き添い、掃除、庭の草取りなどの活動に、援助する側と受ける側が会員登録しています。

近年は、ふくい女性財団の病児・緊急預かり対応基盤整備事業(厚生労働省委託)、県のすみずみ子育てサポート事業の実施団体となり、子育てに関する依頼が増えています。多様化するニーズに応えるため、援助スタッフは研修会、講習会等で研鑽に努めています。

今後も、共に明るく助けあって生きる社会をめざして、真心と信頼をモットーに活動の輪を広げてまいります。

福井男女共同参画ネットワーク

代表 山崎 栄一

激動の20年の足あとを未来につなぐ。福井男女共同参画ネットワーク(46団体・グループ)は2月27日、発足20周年記念式典を行った。

平成元年の市制百年を期して、市内33女性団体が実行委員会を結成、「福井女性新たな旅立ち101」に結集。その実行委員会をもとに「福井女性ネットワーク」がスタートした。その後、時代の要請である男女共同参画社会づくりに行政と二人三脚で取り組んできた。「男女でつくる地域推進フォーラム」4千人対話、「男女共同参画福井宣言」「条例制定」「女性模擬議会」「あじさい行動プラン」実施など実績を積んだ。

20周年記念事業では、①北欧の翼②男女共同参画激動の20年史誌発行③記念式典を成功。この20年の足あとを次代に正しく伝え、さらに男女共同参画社会の定着に組織をあげて取り組んでいく決意を固めた。



20年史



記念式典で600人を前に四世代代表がアピール文発表

編集後記

身近な学習の場として人気の「地域ネットワークリーダー研修会」は自主企画など各会場ともに大盛況でした。時代に即した「男女共同参画セミナー」などでも気づき・学びを得ました。これらを活かし男女共同参画社会の推進に努めましょう。

発行者

(財)ふくい女性財団

〒918-8135 福井市下六条町14-1
福井県生活学習館(ユー・アイふくい)2階
TEL:0776-41-4254 FAX:0776-41-4260
E-mail:fujho-zai@cnr.ne.jp URL:http://www.fjhosei.or.jp

「ふくいきらめきフェスティバル」が
変わります!

福井県の定める男女共同参画月間(毎年6月)の記念行事として、毎年「ふくいきらめきフェスティバル」を開催しています。今年は、装いを新たに「県大会」と「地域大会」(6月と6月以降日程で各1日)を開催します。これまで以上に、皆様方のご協力・ご参加をお願いいたします。



*県大会:6月12日(土) ユー・アイふくい
*大会詳細は順次HP等でお知らせします。